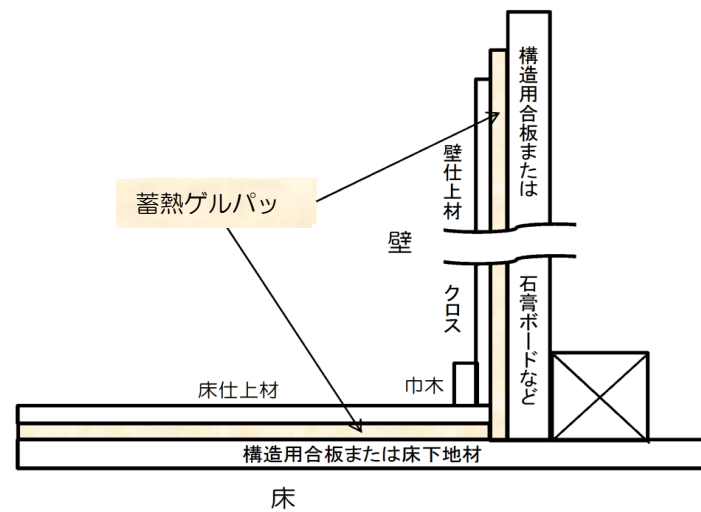


1 利用方法A、B、Cの施工図

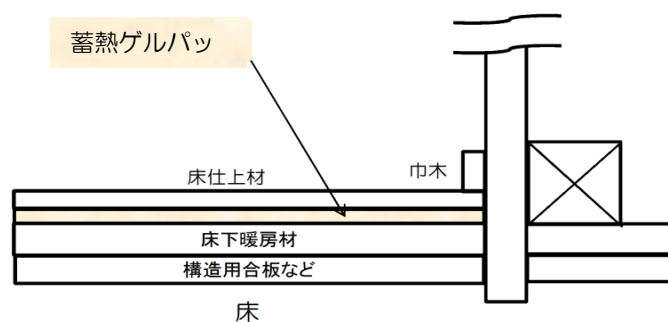
利用方法A

『開口部からの進入日射熱』利用の場合



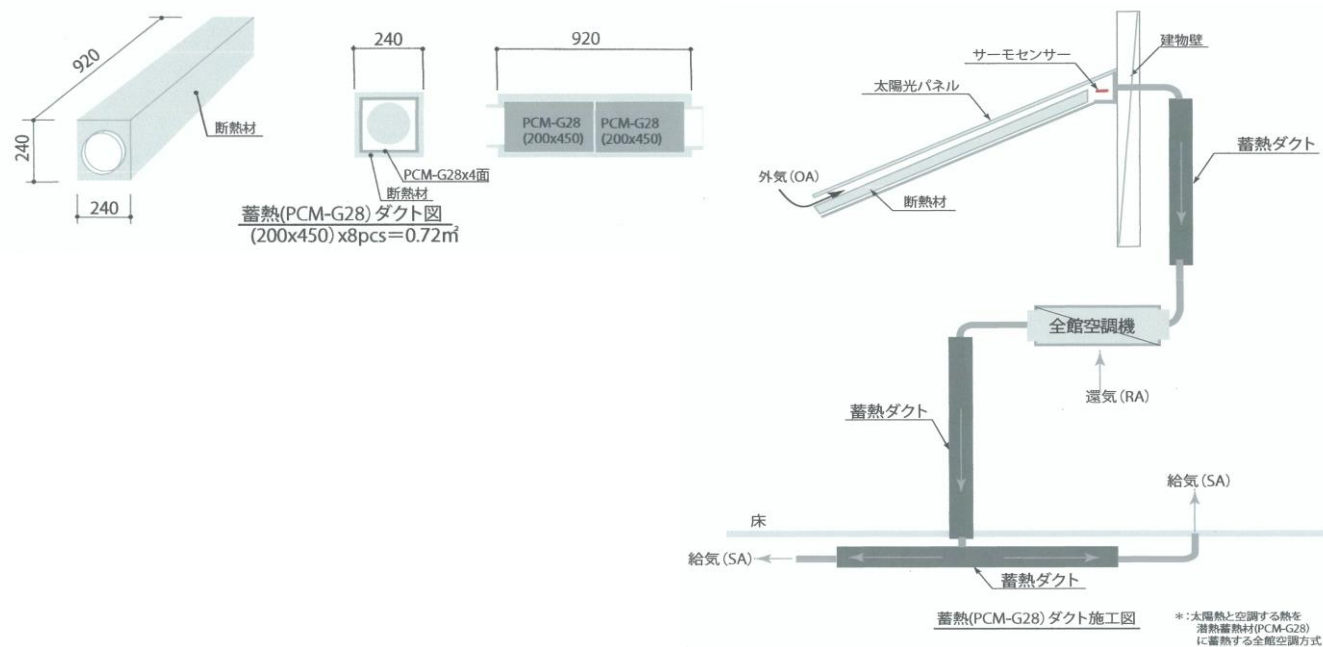
利用方法B

『温水式床暖房放熱機器』利用の場合



利用方法C

『屋根空気集熱式ソーラーシステム』利用の場合



2 蓄熱ゲルの施工方法

① 切断方法

切断不可

② 施工方法

蓄熱ゲルパックを施工する場合は、釘打ち、ビス止めは不可。両面テープ等で、施工する部位の相手材料に合わせた施工方法を推奨します。

蓄熱ゲルパックの施工方法AとB

構造用合板および下地材に根太などで、ゲルパックを収納できるように枠組みを施工する
枠組み寸法はゲルパックが収納でき、且つ床仕上材、壁仕上材を釘打ちする位置に合わせる

ゲルパックを敷設する際は、接着剤で構造用合板および下地材に部分固定をする

ゲルパックと床仕上材および壁仕上材はできる限りすき間をあけずに施工をする

蓄熱ゲルパックの施工方法C

ゲルパックを内壁に取り付けをした角型ダクト「蓄熱ダクト」を
別紙参照の上設置、施工をして全館空調の方式とする

3 施工の注意事項

① パックされた内容物のゲル材が流出しないように釘打ちビス止めなどはしないこと

パックのフィルムが破損した場合は使用をしないでください

② 一般的に工事で使用する接着剤を利用することができます。

4 問合せ先

三木理研工業株式会社
073-451-2271